

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070301195		
法人名	医療法人 岩下会		
事業所名	岩下病院グループホームあさがお		
所在地	桐生市宮本町1丁目8-33		
自己評価作成日	H22. 9. 28	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階
訪問調査日	平成22年10月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>* のんびり・ゆったりと家庭的な雰囲気を大切にしている。 * 年に1回、施設関係者・利用者さんとそのご家族・近隣の方をご招待し、当施設内でのバイキングを楽しんで頂いています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者一人ひとりの気持ちを大切に考え、希望の表出や自己決定ができるよう、職員は言葉かけに気をつけて対応している。食事が楽しみなものになるように職員が献立を作成し、家庭的な料理を提供している。母体の病院との連携で、健康維持が確保されている。地域との交流を進めながら、職員の温かい見守りの中で、利用者が笑ったり、生き生きと語り合い、ゆったりと過ごしているホームである。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ全員で考えた理念を頭において、地域生活・人々とのふれあいを大切にしています。	前回の外部評価の結果を踏まえて、職員全員で話し合い、事業所が目指す地域密着型サービスのあり方を示した独自の理念を掲げている。会議等で理念に触れ、職員間で共有しながら実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	組合に入り、地域の行事、花見や納涼会などには参加している。 又、クリスマス会では近隣に回覧板をまわして参加して頂き、近隣の方とのふれあいを持っている。	組合(隣組)に加入しており、地域の行事である祭り(子供神輿との交流)・花見や納涼会等に参加している。事業所主催のクリスマス会(バイキング)には近隣の人々に回覧板で参加を呼びかけ、家族等やボランティアと共に地域住民との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだ、地域の人に活かされていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議に参加して頂いた方に利用者の日頃の様子、活動状況を説明し、参加者の意見をサービス向上に活かしている。	今年度の運営推進会議は4回開催している。利用者の様子・活動状況等の報告を行い、話し合いを行っている。出された意見等はサービス向上に活かしている。6月に消防署の協力を得て、心肺蘇生法・AEDの使い方等の講義・実習を実施している。市の担当者が参加していない回がある。	会議は、事業所の考え方、運営や現場の実情等を伝える貴重な機会である。認知症ケアの実際を理解してもらうためにも、会議は1年間に6回以上開催し、意見等をサービス向上に活かしてほしい。市担当者の毎回の参加を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所に行った際は、介護高齢課に寄るよう心掛けている。	利用者の報告や申請代行、解らないことの相談等で市の窓口へ出かけ、市の担当者と連携を図りながら、サービス向上に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	指定基準において禁止されている行為はしていないが、玄関の施錠についてはスタッフとの話し合いが必要。	身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、身体拘束に関する定期的な研修は実施されていない。日中玄関は施錠されている。	一人ひとりの利用者が抱えている根本的な不安や混乱を取り除くケアを実践し、利用者の出て行く気配を見落とさない見守りの方法を徹底しながら、玄関の施錠を常態化せず、鍵をかけたケアに取り組んでほしい。「身体拘束をしないケア」について、定期的な研修の開催に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待行為に繋がる前に、ケアの方法が違っていればその度伝授して理解してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修を受けた職員数名いるが、全員が学べる機会がもてるよう勤務調整し支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明と事前の話し合いにより理解・納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や苦情はよく入って来ている。それらについては会議を持ち、即、反映出来るようにしている。	利用者からの要望等を聞くように努めている。運営推進会議や家族等の来訪時には、話しやすい雰囲気づくりに留意している。出された意見や要望等を職員ノートに記録し、会議等で話し合い、速やかに運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回会議を持ち意見交換している。個別面談は年1回行い、悩みなどを含めて意見・要望を聞くようにしている。	管理者は、日頃から職員に声をかけ、コミュニケーションを図るよう心掛けている。月1回、会議等で職員の意見や要望等を聞くように努めており、年1回個人面談を行っている。職員の意見や気づきを大切に、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の悩み・ストレスに気を配り、時には話を聞き、スタッフ同士の人間関係がスムーズにいくよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間に行われる外部研修の情報収集して職員の段階に応じてなるべく多くの職員が受講している。そして、レポートや報告する事で、よりよいケアの向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内のブロック別連絡会があり、その中の研修に参加させて頂き、質の向上に励んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に見学に来て頂いて、不安や心配を取り除くように努め、話し合いを納得されるまで時間をかけて行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の求めているものを理解して又、納得・安心される様に話し合いには時間を十分に持つようになっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の思い・状況を確認し、支援の提案・相談を繰り返し行う事で、改善に向けた必要なサービスに繋げるようになっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、利用者の個々の生活歴を十分に理解して、その方に合った喜怒哀楽を共にする様にしている。		
19		職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問時間を自由に行っている事で、日頃の生活の報告よりも現に、早朝・日中・夜も生活を見て頂き、本人を支える上で、家族との協力関係が築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由に外出・外泊をして頂いております。	友人・知人等の来訪時には、ゆっくり過ごしてもらえよう配慮している。家族等と一緒に外食・外泊・美容院・墓参り等に出かけている。電話や手紙での連絡を取り持つ等、継続的な交流ができるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の上で、役割があり支え合っている。 トラブルが発生した時は、スタッフが間に入って関係が良くなるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの暮らしの継続が損なわれないように、生活環境・支援の内容・注意が必要な点など情報提供し、きめ細かい連携を心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声を掛け、把握に努めている。意思疎通の困難な方には、家族より情報を得るようにしている。	日々の関わりの中で声を掛け、思いや意向の把握に努めている。言葉や表情等から真意を推し測るようにしている。意思疎通が困難な場合には、家族等から情報を得て、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーを配慮し、生活歴を把握し、本人が安らかに自分らしく暮らしていけるよう支援する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人らしく生活していく為に、一人ひとりの生活のリズムを理解し安心して生活していけるよう援助に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ間で月1回モニタリングを行っている。	本人・家族等の思いや意向を聞き取り、月1回の会議等で職員が問題点を出し合い、介護計画を作成している。3ヶ月に1度のモニタリングと定期的な見直し、状態の変化に応じて随時見直しを行っている。	新たな要望や状態に変化が見られない場合でも、本人や家族等の意向・状況を確認しながら、月に1度はモニタリングを行い、介護計画の遂行状況や効果等を評価してほしい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員全員が情報を共有し、ケアの見直し・評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	食事制限のある方は、母体の給食に依頼したりし臨機応変に提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	肉は肉屋・野菜は八百屋と近所の商店を利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族が希望するかかりつけ医となっている。 基本的には、家族同行の受診となっているが都合が悪い時は職員が代行するようにしている。	本人・家族等の希望するかかりつけ医となっている。家族等が受診・通院の同行をしているが、都合が付かない場合は職員が代行し、結果を報告している。協力医と連携を図り、2週に1回往診支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体の岩下病院の看護師と連携とれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携とれている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医と連絡を密にし、変化のあった時などは指示を仰ぐようにしている。	「看取り同意書」を作成しており、入居時に本人・家族等に説明し、同意を得ている。状態等の変化に応じて本人・家族等と話し合い、意向等を確認しながら、かかりつけ医及び関係者全員で方針を共有し、支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、救急手当や蘇生術の講座を受け、全ての職員が対応出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、消火器の使い方の訓練を定期的に行っている。 夜間緊急時マニュアルを作成してある。	年2回、消防署の協力を得て、昼夜想定で総合防災訓練や避難誘導訓練を実施している。地域との協力体制については、運営推進会議で協力を依頼している。自動通報装置、スプリンクラーを設置している。	災害時に備えて、いざという時に慌てず確実な避難誘導ができるように、実践訓練の増加や職員だけの避難誘導の限界を踏まえて、地域住民等の協力が実際に得られるよう、地域との協力体制の構築に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを大切に考えて、自己決定しやすい声掛けをするよう努めている。その他にプライバシーの件で居室入口にはレースのカーテンをひいている。	本人の気持ちを大切に考えて、自己決定しやすい言葉かけをするように努めている。職員間でお互いに気をつけて確認し合っている。個人情報の取り扱いに関しては、秘密保持の徹底を図るよう留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	献立をたてる際、利用者の意見を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは持っているが、食事の時間や入浴の時間以外は自由な時間で、趣味の読書をされたり、歌を歌ったり、手芸や将棋をされたり、個人の好きな事をして過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服などは本人の意向で決めている。支援が必要な方にはどちらの服が良いか声掛けして自己決定出来るようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備・切る・炒める・盛り付け・配膳など共にしている。利用者とスタッフがテーブルを囲み同時に楽しく食べている。	利用者の力量等に応じて、調理の下ごしらえ・盛り付け・配膳・後片付け等、職員と一緒にしている。職員も同じテーブルを囲み、さりげなく介助しながら楽しく食事ができるよう支援している。おやつ作り(ホットケーキ・たこ焼き等)をしたり、外食やお弁当を買ってきて楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量と水分チェックをしています。飲み込みの調子が悪い方には、食物を細目にしたり、とろみをつけたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔内の清潔保持に努めている。利用者によっては、『クルーナブラシ』や『歯間ブラシ』を使用して、残物の無い様になっている。又、必要に応じて本人の希望により歯科の往診も受けられる様になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄をする事を考慮して、身体機能に感じながら、個人や家族と相談しながら、夜間でもオムツを使わずに声掛けて起きて頂き、トイレで排泄する自立支援をしている。	トイレでの排泄や排泄の自立に向け、排泄のパターンに応じた個別の支援を行っている。本人・家族等と相談しながら、トイレ誘導やオムツ・パットの使用についての見直しを行っている。排便チェック表を使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックをしている。日頃、牛乳・ヨーグルト・フルーツや繊維質の多い食事を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を決めてしまっているが、状態に応じて全身清拭・下半身浴等を行っている。	基本的には入浴日を決め、週3回午前に入浴支援を行っている。入浴を拒否する場合には、全身清拭・下半身浴・シャワー浴等に対応している。浴槽に入浴剤・ゆず等を入れ、入浴を楽しめるよう工夫している。	曜日や時間帯を設定せずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、いつでも入浴を楽しめるように、本人・家族等から希望を聞き、相談しながら個別の入浴支援をしてほしい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合った、入床時間を大切にしている。眠剤を服用されている方には、ふらつきがないか、日中の妨げになっていないか様子観察している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・服薬のファイルを保管している。処方の変更があった場合、すぐにファイルに記入している。 ・状態の変化があった時、医師に上申し、変化があった場合、家族に連絡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台所仕事の好きな方、庭いじりの好きな方、掃除が大好きな方、個々に合った楽しんで出来る役割づくりを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	紅葉がりにドライブ、お弁当を持って花見に行ったり、外食したりしている。又、家族と協力しながら外出する事もある。	利用者の希望に応じて、散歩や近所の商店へ買物に出かけたり、法人の他ホームへ遊びに行くこともある。ドライブ・季節毎の花見・紅葉狩り・外泊・墓参り・外食等に出かけている。家族と協力しながら、戸外に出て気分転換が図れるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々でお金を持っている方と、こちらで預かっている方がいる。好きにパンを買ったり、外食でもお金を自分で払って頂けるようにお手伝いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて、日常的に電話や手紙を出せるように支援している。電話はコードレスを使って、好きな場所でかけられるようになっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の作った作品などは、廊下やフロアの壁に飾り、又、テーブルには季節の生花が置いてあり、楽しまれている会話が聞こえます。	室内は明るく清潔に保たれており、壁には日めくりカレンダーや利用者の作品・写真等が飾られている。観葉植物やテーブルに季節の花を置いている。水槽でメダカを飼ったり、ベランダのプランターに季節の草花を植え、利用者が水遣りをしながら、成長を楽しみにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各部屋には、レースのカーテンをかけ、視界が入りにくくなっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具やタンス、思い出の品々が持ち込まれ、馴染みのある物の中での生活は居心地が良く、良い環境を作り出している。	居室には、桐箆筒・テレビ・椅子・衣装ケース・時計・書籍・家族の写真等、馴染みのものや好みのものが持ち込まれ、一人ひとりが落ち着いて過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内全てがバリアフリー化していることよって自立出来る環境にある。		